

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	骨髄に線維化を来した患者の骨髄における segregated nucleus-containing atypical monocyte(SatM)存在の再確認と SatM 確認症例の割合を見る研究
	研究対象者	2020 年 1 月から 2025 年 6 月の間に、神奈川県立がんセンター及び下記の共同研究機関で「骨髄線維症」あるいは「骨髄に線維化がある」と診断された方と「(悪性)リンパ腫」と診断された方
	研究目的	近年マウスにおいて線維化に関与する SatM と呼ばれる特殊な血液細胞が見つかりました。私達は、1 例の骨髄線維化病巣において、ヒト SatM が存在する可能性を示しました。しかし現時点では、骨髄線維化を来す他の症例でも SatM が存在するのか、また存在するとすれば、どの位の割合で存在するのか、そのあたりの事を、今回の研究で明らかにしたいと思っています。 ヒトの骨髄線維化を起こす症例で高頻度に SatM が見つかるようであれば、将来、貧血などの血球減少を起こす前に SatM を排除するといった治療に結び付く可能性があります。
	研究方法	診断のため採取された骨髄生検検体を用いて、免疫染色を施行し検索します。(患者さんから新たに試料・検体を頂戴する事はありません。)
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号(識別コード)で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 5 年 9 月 1 日 ～ 西 暦 2 0 2 8 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[✓]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃 (研究の進捗によって前後いたします)
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	[✓]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出した DNA、 [X]病理検体(病理診断が完了して残っている骨髄生検検体)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載:_____)
	[✓]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[] 生年月日、[X]性別、[X]既往歴、 [X]併存疾患、[]外来日・入院日・退院日、[X]臨床検査値、[]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X]臨床所見・経過 (予後追跡データを含む)、[] ゲノムデータ、[] 看護記録、[] その他(具体的に記載:_____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター	(研究代表・責任者) 臨床研究所・がん分子病態学部・増永 敦子
	研究責任者	
	共同研究機関および責任者	東海大学医学部付属八王子病院・病理診断科・田尻 琢磨
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター・臨床研究所がん分子病態学部・宮城洋平 TEL 045-520-2222 利用停止のお申し出は 2026 年 12 月 15 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります